

先発品と効能・効果及び用法・用量が異なる製品

日新製薬株式会社

■エダラボン点滴静注液 30mg 「NS」・エダラボン点滴静注バッグ 30mg 「NS」

一般名：エダラボン 規格：エダラボンとして 30mg/20mL/1 管・30 mg/100mL/1 袋

下線部：相違点

	自社品	先発品 (エダラボン30mg注射剤・エダラボン30mgバッグ製剤)
効能・効果	<p>〈エダラボン点滴静注液30mg 「NS」・エダラボン点滴静注バッグ30mg 「NS」 共通〉</p> <p>脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善</p>	<p>〈エダラボン30mg注射剤・エダラボン30mgバッグ製剤共通〉</p> <p>1. 脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善</p> <p>2. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）における機能障害の進行抑制</p>
用法・用量	<p>〈エダラボン点滴静注液30mg 「NS」〉</p> <p>通常、成人に1回1管（エダラボンとして30mg）を適当量の生理食塩液等で用時希釈し、30分かけて1日朝夕2回の点滴静注を行う。</p> <p>発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内とする。</p> <p>〈エダラボン点滴静注バッグ30mg 「NS」〉</p> <p>通常、成人に1回1袋（エダラボンとして30mg）を、30分かけて1日朝夕2回の点滴静注を行う。</p> <p>発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内とする。</p>	<p>〈エダラボン30mg注射剤〉</p> <p>1. 脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善</p> <p>通常、成人に1回1管（エダラボンとして30mg）を適当量の生理食塩液等で用時希釈し、30分かけて1日朝夕2回の点滴静注を行う。</p> <p>発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内とする。</p> <p>2. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）における機能障害の進行抑制</p> <p>通常、成人に1回2管（エダラボンとして60mg）を適当量の生理食塩液等で用時希釈し、60分かけて1日1回点滴静注を行う。</p> <p>通常、本剤投与期と休薬期を組み合わせた28日間を1クールとし、これを繰り返す。第1クールは14日間連日投与する投与期の後14日間休薬し、第2クール以降は14日間のうち10日間投与する投与期の後14日間休薬する。</p> <p>〈エダラボン30mgバッグ製剤〉</p> <p>1. 脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善</p> <p>通常、成人に1回1袋（エダラボンとして30mg）を、30分かけて1日朝夕2回の点滴静注を行う。</p> <p>発症後24時間以内に投与を開始し、投与期間は14日以内とする。</p> <p>2. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）における機能障害の進行抑制</p> <p>通常、成人に1回2袋（エダラボンとして60mg）を、60分かけて1日1回点滴静注を行う。</p> <p>通常、本剤投与期と休薬期を組み合わせた28日間を1クールとし、これを繰り返す。第1クールは14日間連日投与する投与期の後14日間休薬し、第2クール以降は14日間のうち10日間投与する投与期の後14日間休薬する。</p>